

## クンケル文庫について

西村, 重雄  
福岡工業大学教授, 九州大学名誉教授

<https://hdl.handle.net/2324/11011>

---

出版情報 : 貴重文物講習会. 10, 2008-07-25. 九州大学附属図書館  
バージョン :  
権利関係 :

渡してくれる。終れば無人の返却台に返すだけだが、継続して見たい時は希望の月日と氏名を書いた紙をはさんで出納台に戻す。土曜と月曜午前中には新規の請求はできないので、必ず金曜までにこの処置が必要である。

閲覧室の入口には参考係が常時3人待機していて、写真複製願や簡単な質問（例えば小学校高学年とおぼしき少年達が郷土史の勉強のため古文書を検索している）に答えるが、古文書の内容に即した専門的な質問は、メモを参考係に渡しておくで、土曜日に各専門の館員が応待する。幸い第1部門では前記オプスタル女史とルーシク氏を常任幹事とする毎水曜近くの中華料理屋での昼食会に出ると、欧亜各国の該地研究者がいつも10人程は出席するので、研究上の疑問は殆んどここで解決され、有益な示唆や研究情報の交換もできた。また両氏の情報と紹介で、オランダ各地の文書館・博物館を訪ね、実に効率よく調査できたことも忘れられない。

同時に、私を日本人かと確めた上で、身内の捕虜収容所時代の日本語記事や遺品等について説明を請うた閲覧者も二・三にとどまらなかった。大かたのオランダ人にとって、“蘭印”は“Desima”よりはるかに身近かなことであることも又事実である。 (文学部教授)

## クンケル文庫について

西 村 重 雄

このたび、ローマ法研究の世界的権威であったミュンヘン大学法学部クンケル(Wolfgang KUNKEL)教授(1902-1981)の遺文庫が、御遺族の御理解と関係当局各位の格別の御尽力により本学附属図書館に収められることとなり、過日到着し現在鋭意その整理が進められている。以下、同教授の略歴ならびに遺文庫の概要を紹介したい。

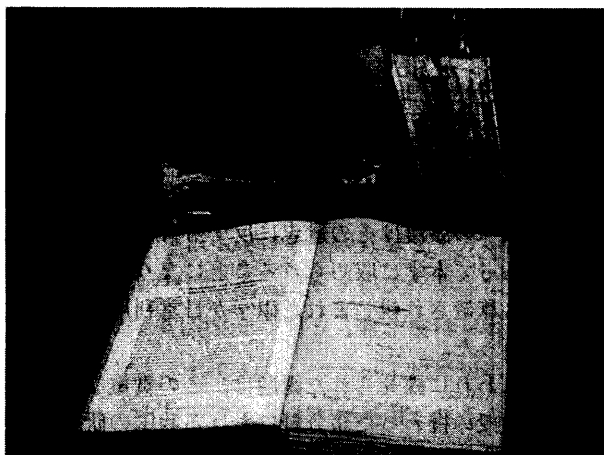
クンケル教授は南ヘッセンのフェルトにおいて牧師(のちギムナジウム教授)の子として生れ、1920年ダームシュタットでギムナジウムを終



えたのち、フランクフルト大学およびギーゼン大学において法学および古代学を学んだ。1923年司法修習生となり、翌24年学位(法学博士)を取得した後ベルリン大学法学部助手となり、26年パピルス文書の研究・編集公刊により異例の若さで教授資格を取得した。1929年ゲッティンゲン大学法学部正教授となり、以降35年ボン大学、46年ハイデルベルク大学を経て、56年ミュンヘン大学教授となり、以来81年に没するまでミュンヘンに居を構えて研究に精進した。その間、内外の多数の学者を育成し(コーイング教授をはじめとし西ドイツのローマ法教授の優にその半数はその門下生であるといわれるが、その師の性格を反映して、師弟関係はきわめて自由であり、いわゆる学派を形成するものではない)、また、戦争直後より、ローマ法専門誌として世界で最も権威のあるサヴィニー雑誌ローマ法部門の共同編集者として、その重責を長い間果たした。他方、ハイデルベルク大学学長を戦後の困難な時期に勤め、またミュンヘン大学法学部長を歴任すると

同時に、バイエルン学士院会員として重要な任務を果たした。この他、英国学士院、ローマ学士院、アテネ学士院などの外国人会員に選ばれ、また内外の大学から名誉博士号を贈られている。

その学問的業績について概観するとすれば、教授の命名は、まず、ローマ私法を歴史的・理論的に叙述した『ローマ私法』(1935)によって広く知られることになったといつてよいであろう。その透徹した叙述は、戦後刊行された浩渾なカーサー教授の二巻の『ローマ私法』と並び、今



日なお常に参照され、読むたびに多くの刺激を得るといわれる。(ちなみに、遺文庫には教授が一枚づつ白紙を間に入れて製本して愛用し、多数の書込みのあるもの一写真手前一が含まれている)このような著作をすでに30才をわずかに超えた年令で完成させていることはまことに驚きという他ない。その後(教授から筆者が伺った表現によると)「本来の関心」である古代史研究に主として向い、ローマの法学者として挙げられるすべての人物について、利用しうるあらゆる文献史料・碑文史料を駆使して、その出自と社会的地位を研究(『ローマ法学者の出自と社会的地位』1952)し、ローマ法学史の研究に一大展開をもたらした。(この著作は、教授を学生時代からその関心に導いたローマ法学者レヴィ Ervst LEVY およびローマ史家ゲルツァ Matthias GELZER に捧げられている)さらに、ドイツ・アカデミズムの粹といわれる「古代学叢書」の『ローマ国制史』の著述を引き受け、その完成のために、文字通りその生涯の最後まで努力を払った。ローマ国制史は、前世紀末テオドル・モムゼンの『ローマ国制史』全三巻五冊によって豊富な引証を伴って体系化され、以降世界の学界は多少の異同を残しつつも基本的にこれに従ってきたのであるが、教授はこれに対してモムゼンの利用した史料を全面的に丹念に検討し直すことにより、これと大きく違った国制の段階的發展を描くこととなった。(遺文庫に所蔵のほとんど分解寸前ともいえるモムゼン『国制史』一写真上部参照一は教授とモムゼンとの「対話」の真剣さを具体的に示しているように思われる)その結果、『スッラ以前のローマ刑事訴訟發展史研究』(1962)を「副産物」として生み、従来のローマ刑事訴訟法史の見方を大きく変え、また、国制史に関するいくつかの個別論文として発表されて大きな反響を呼び、さらに、簡潔ながら適確な叙述で定評のあるその著『ローマ法史』(初版1948。自ら6版(1971)まで改訂を施し続けた。なお、本書は、英訳、イタリア訳、スペイン訳も既に出版されている)の中で略述されているが、現在は、遺された原稿の公刊が切望されている。教授の主たる業績が古代に関するものであるとしても、ドイツ法史(中世末・近世)さらにドイツ民法での業績もまた忘れる訳にはいかない。

このような教授の幅広い関心からその蔵書は広く、ローマ私法並びに公法、ローマ史、ギリシャ史・パピルス学などを中心としドイツ法史などにも及び、ことに古代史料については丹念に収集されているという印象を与えている。総量としては、単行本約3000冊、雑誌・定期刊行物等約1300冊であり、独・仏・英・伊を中心としてスペイン語・オランダ語やラテン語・ギリシャ語など多様なものを含み、また、古刊本の中にはローマ法大全の重要な16世紀末刊行本などが含まれている。この他に、世界の学者から献呈された8000を超える抜刷が本文庫には含まれており、教授が

碩学としていかに世界の学界において重要な位置を占めていたかを如実に示していると同時に、今日入手するのが容易でない論文を多数見出すことが出来、文庫の価値を一層高めている。

ドイツにおいても、本文庫のドイツ国外への流出については惜しむ声が少ないと聞く。しかし、戦前ボン時代初期に森馨教授(1982年没)がそのゼミナールに参加されたのをはじめとして、クンケル教授は日本の多くの学者との交流があり、教授の高弟でありまたミュンヘン大学における講座承継者であるネル(Dieter NÖRR)教授の斡旋により、「これらの事情からすれば遺文庫の日本の大学への譲渡はその遺志に反するものではないであろう」との御遺族の御理解を得て、このたび縁あって本学に収められることになり、その学識のみならず、その人柄・行動からも多くの人々から尊敬され親しまれた碩学が日常利用した書籍をわれわれが利用するという栄誉に浴することになった。

今後われわれに課せられた課題は、この貴重な遺文庫をまずは整理し、ついで、これを使ってクンケル教授の携わった諸分野における我国の研究を一層発展させることであろうかと思われる。現在特殊文庫の整理につき豊富な経験を有する附属図書館において、着実に整理が進められているが、ただ何分その量とその内容の多様性からその作業は容易でないことは想像に難しくなく、従ってその完了までには多くの困難と相当の日時を要することが予測され、各方面の御理解と御寛容をお願いする次第である。

(法学部教授)

## (((資料紹介)))

### 昭和57年度「特別図書購入費」による購入図書について

— 中央図書館 —

昭和57年度の「特別図書」として下記の通り購入しましたのでご利用ください。

#### 昭和57年度特別図書一覧

- |  |   |
|--|---|
| British Parliamentary Papers.<br>— Colonies General — (IUP)<br>Vol. 10-15 6 vols.<br>(英国議会報告書)   | Sammlung 18. Jahrhundert. Hrsg. v. Jörn Garber.<br>(Scriptor-Vlg. Königstein/DEU)<br>31 titles in 33 Bks. (1982)<br>(18世紀政治の社会思潮の展望)                              |
| Crusades and Military Orders.<br>(An AMS Press Reprint Series.)<br>First Series (1829-1959): 23 titles. 28 vols.<br>Second Series (1775-1962): 25 titles. 26 vols.<br>(十字軍と軍規) | Studia et Documenta Historiae et Juris.<br>(Pontificium Institutum Utriusque Iuris)<br>Vol. 1-28, 31-33, 35-47. 44 vols.<br>(法政史資料研究)                             |
| Energy Resources and their Control.<br>44 vols.<br>(エネルギー資源調査文献資料集)  | Studies in Personnel Policy.<br>No. 1-221 (lack 4 Nos) 41 vols.<br>(労務政策研究)   |
| Encyclopedia of Educational Research.<br>5 ed. Vol. 1-4 (1982) 4 vols.<br>(教育研究百科事典 第5版)   | 1) The War in Vietnam: Histories by the National<br>Security Council. 1964-1968<br>35mm microfilm. 8 reels. (1982)  |
| Gesamtverzeichnis des deutschsprachigen Schrifttums.<br>Vol. 45— Vol. 70 26 vols.<br>(ドイツ文献総目録)  | 2) Transcripts and Files of the Paris Peace Talks<br>on Vietnam, 1968-1973.<br>35mm microfilm. 12 reels. (1982)<br>(Univ. Pub. of Amer. In)<br>(ベトナム戦争に関する米国政府資料) |
| Hansische Geschichtsblätter.<br>Jg. 1925-1981 41 vols.<br>(ハンザ同盟史雑誌)   | Young India. 1919-1931 (1980). 13 vols.<br>(Reprint)<br>(ヤング・インディア誌)  |
| Instructional Science.<br>Vol. 1-10 (1972-1981) 10 vols.<br>(教育科学に関するジャーナル)  | 柳 當日次記<br>国立公文書館内閣文庫蔵版<br>原本771冊(35ミリマイクロフィルム版) 130リール  |